

教室も先生も予算も足りない



# 特別支援学校増設、 正規教員増を求める

県内の特別支援学校は、整備計画策定時（07年）の推定を、はるかに超えて児童生徒が増えています。特に知的障害児は、昨年度、推計値1583人を362人も上回り、整備した4校だけでも55クラスも想定を超えています。

また、専門性が求められる教員も、築城、大宰府などは約半数、全県的には3人に1人が非正規です。

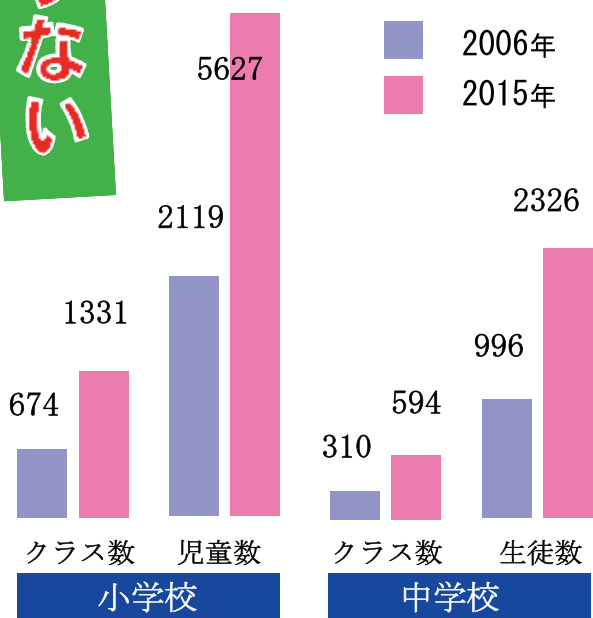
山口律子議員は予算特別委員会で、共産党県議団がこの間視察調査した太宰府、直方、築城3校の実態を突きつけ、「予算を増やして、学校も正規教員も増やし、充実した教育を」と求めました。

県教育長は、「障害に応じた支援の必要がある」「必要となる予算の確保に努めていきたい」と答弁しました。



築城特別支援学校を視察  
(2016年2月17日)

## 特別支援教育の 児童生徒が倍増



特別支援教育を受ける児童・生徒の増加

実現

## 特別支援教育を行っている 私学への助成金100万円増に

「支援を必要としている生徒が増加するなか、その少なくない部分を私学が担い学習権を保証している」「特別支援学校の高等部はクラス9名だが、高等学校の場合、支援が必要な生徒の数にかかわらず40名。細やかな対応のための加配、教材教具費など充実が必要」— 昨年の9月議会一般質問で、高瀬菜穂子議員は、公教育としての責任を問うとともに、私学への援助の拡充を求めました。

小川県知事は、「県の助成制度を十分活用し、私立高校における特別支援教育の充実を図ってまいる」と答弁。今年度から私学への助成金が100万円増額されました。

# 学校現場の悲鳴 ぞくぞく 校長アンケート

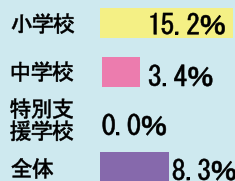
日本共産党県議団は、教員配置や病休代替の実態について、独自にアンケートを実施しました。対象は県内公立小中学校、特別支援学校あわせて1,120校です。回答は72校（6.34%）から寄せられました。

### 寄せられたご意見

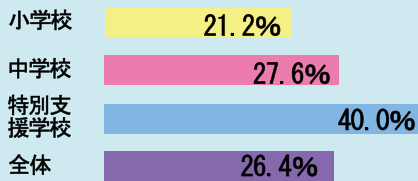
- もっと正規教員を入れないと、やがて教員の平均年齢が50代前半になる可能性大。教育の質が下がり学校は必ず混乱する。
- 定数自体が少なく、1人あたりの授業数が多い。
- 教育は将来の日本を支える大切な分野。教育に予算を増やしてほしい。

- 病休代替がなぜ非常勤講師なのか、まったく理解できない。
- 担任が病休となり、代わった職員も病休をとり、現在教頭が担任をしている。代替がおらず、このままでは学校活動に支障をきたす。
- 非常勤講師「課題対応」教員（週12時間）の配置はいただいたが、人材は未定のままです。・・・

●クラス数に応じた教員定数が確保されていないと回答



●病休の先生がいると回答



●定数内講師の定数全体の割合

